

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

横見学校
「学力向上実行プラン」

○命と人権を大切にし、たくましく生きる児童の育成

- ・ 学力向上に取り組む～わかる喜びを実感できる授業づくり～
- ・ 一人一人自己肯定感を高め、認め合い、支え合う集団づくり

学力向上推進員 藤本奈津美	委員	
	校長: 森下稲子	教頭: 佐野恭子
	教務主任: 板東教古	研修主任: 杉本峯代
	特別支援教育コーディネーター: 西真衣	

校長

森下 稲子

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的・基本的な知識・技能の習得にまじめに取り組む児童が多いが、習得率にはばらつきがある。 ●長い文章や問題の意図を正確に読み取る力が十分ではなく、習得した知識や技能を適切に学習に生かすことができていない。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、漢字や計算の問題で85～90%以上の正答ができる。 ・身に付けた知識や技能を適切に使用して、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・ポジティブな行動支援に基づく授業展開を行う。授業の中で“できた”につながるA(活動の前)・B(活動)・C(活動の後)を工夫する。 ・漢字・計算・読み取りのドリル学習や毎日の音読などを継続して行う。 ・ノート指導や日記指導の充実を図る。	・タブレットを活用し、引き続き基礎基本の学力(漢字・計算・熟語や言語・文法など)をつけさせる。 ・文の構成や全体の流れをつかむ力をつけさせる。	・タブレットを利用した学習に意欲的に取り組めた。 ・漢字・計算・読み取りなどの反復練習ができた。 ・基本の漢字・計算・読み取りの力の定着に差があった。	・基礎的・基本的な知識や技能を身につけるために、反復練習の時間を確保する。 ・紙と鉛筆を使う学習のよさを見直し、デジタル学習と合わせ、効果的な活用を進める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○音読や発表による表現には意欲的で、方法や手順がわかっている学習には、まじめに取り組んでいる。 ●自分の考えを筋道立てて説明したり、文章に書いたりして表現する力が十分とは言えない。	・根拠や理由、考えに至る過程を明確にしなが、筋道立てて自分の考えを表現し、伝え合うことができる。 ・様々な考えや意見を比較しながら、考えを深め、多様な表現方法を身に付けることができる。	・考える時間を十分に確保して自分の考えが持てるように支援し、ペア学習やグループ学習を取り入れ、考えを共有したり、比較したりする場を設ける。 ・自分の思いや考えを書く場面を増やすようにする。	・類似と対比に気をつけてグラフや資料を読み取らせる機会をもたせる。 ・新聞を活用し、要約や記事の感想を書く活動を行う。 ・読書を奨励し、長文を読むことに慣れさせる。	・ペア学習、グループ学習などを通じ意見のやりとりができた。しかし、確かな表現力をつけるのには十分ではない。 ・新聞活用や日記、創作など、「書く」活動を増やした。書くことに慣れはしたが、表現力などはまだついていない。	・下学年では、自分の考えを発表したり、伝え合ったりする機会をもたせ、表現力(話す・聞く)を養う。 ・上学年では、辞書の活用推進や、新聞記事の書き写し、要約などの活動を通し、表現力(書く)や語彙力をつける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決まりを守って落ち着いた態度で学校生活を送り、与えられた課題にまじめに取り組んでいる。宿題をする習慣がほぼ定着している。 ●自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。集中が続かず、話を十分に聞くことができない児童がいる。	・基本的な生活習慣を身に付け、落ち着いた学習に取り組むことができる。 ・「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習に取り組むことができる。 ・自主学習ノートを使い、自分で考えて予習や復習を進んで進めることができる。	・睡眠時間の確保やバランスのよい朝食の大切さ、放課後の過ごし方の見直しなどについて、児童と保護者に啓発する。 ・「家庭学習の手引き」を配布し、家庭との連携を図りながら、各学年に応じた生活や学習の仕方を指導する。 ・自主学習ノートの提出を継続し、定期的に指導を加え、内容の充実を図る。	・主体的に学習に取り組めるような課題設定を子どもの実態に合わせて行う。	・朝会や集会など話を聞く場面での態度を評価し、「聞く力」の育成を意識した。 ・学力に結びつく、よい生活習慣をつけさせたいが、家庭の協力が得にくい場合もあり、改善が難しい現状がある。	・持ち物をそろえる、時間を守る、学習準備をするなど、学校における学習習慣の定着を継続する。 ・保護者に生活習慣の大切さを啓発し、協力を得られるようにする。

令和5年度 学力向上ロードマップ



